

「巡検会報告」

菊池溪谷の巡検会

黒木恵史¹⁾・原浩太郎¹⁾・永岡由利子²⁾

1. はじめに

平成 21 年 5 月 2 日（土）に、熊本大学名誉教授の渡辺一徳先生の案内で菊池溪谷の巡検会が行われた。今回の主な目的は、阿蘇火砕流堆積物を作る菊池溪谷の地形や堆積物の観察を行うことであった。4 1 人という多数の参加で行われた。

2. 各観察地点と観察内容の報告

①駐車場から溪谷入り口の道（県道 45 号線）

上流側の駐車場から溪谷の入り口へ進む途中に阿蘇 - 1 火砕流堆積物の露頭を観察することができる。阿蘇 - 1 火砕流堆積物の岩石はレンズの中に斜長石をしばしば含む。

②黎明の滝

阿蘇 - 1 火砕流堆積物の強溶結部であるという説明があった。岩肌には柱状節理を上から見ることができるものがあり、また、川の流れにそって平行な節理が見られた。これは、火砕流堆積物が菊池溪谷を埋めたときに、両側の壁から中央にひっぱられるようにして固まったため、川の流れにそって平行に見え、谷の下流の方へ続いているという説明であった。

③紅葉ヶ瀬

ここでは火砕流堆積物によく見られる、平滑河床が観察できた。溪谷の比較的上流に見られ、礫がないのが特徴である。礫がないことからそれ相応の勢いがあったことがわかり、エネルギーの大きさを感じた。また、川の流れにそって平行に溝ができる縦溝河床も見られた。

④竜ヶ淵

ここでは、滝の下部・滝の横など川の下流に向けて柱状節理がみられた。ここでの柱状節理は、きれいな多角形のものも多く、黎明の滝の

ように他から力が加えられていないことがわかった（写真 1）。



写真 1 竜ヶ淵

⑤四十三万滝

ここでは強溶結部と非溶結部の境で明瞭に滝ができていることが確認できた。溶結凝灰岩の崖は侵食される時に岩石が柱状のまま剥がれ落ちるため、滝の上部が鉛直になっていることがわかった（写真 2）。



写真 2 四十三万滝

⑥広河原

河床がとても平滑であった。谷を火砕流堆積物がすべて埋めても、基盤地形の尾根部より火砕流堆積物が厚く積もった谷部の方で溶結作用

1) 熊本大学教育学研究科 2) 熊本大学教育学部

が強くおき、それにより堆積面の低下量も大きくなるので、再度同じ場所に谷ができるという説明であった。

⑦地図の源

菊池渓谷より、東方へ県道 45 号線を上ると、地図を作る際に基準となる測量法で定められた平面直角座標系の第 II 系原点、「地図の源」が見られた。東経 131 度 0 分 0 秒 0000 度、北緯 33 度 0 分 0 秒 0000 度に位置する。

3. おわりに

今回の巡検に参加し、有名な景勝地である菊池渓谷で地質学的な観察ができることがわかった。阿蘇火砕流堆積物の観察を行うとともに、火砕流堆積物の特性と滝や崖などの発達の関係が観察でき、大変興味深かった。また、他にも発達した V 字谷や渓谷の植物も観察することができた。

充実した資料を準備し、終始丁寧にご説明いただいた渡辺一徳先生に深く感謝の意を表し、巡検会報告とする。

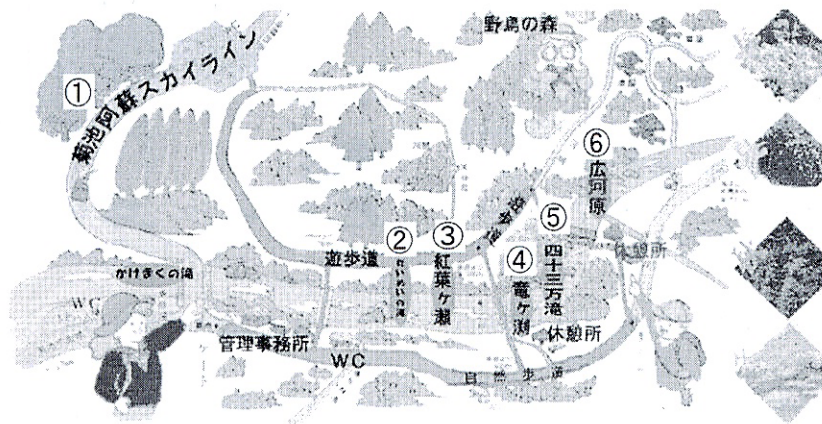


図 1 菊池渓谷を美しくする保護管理協議会（菊池市役所商工観光課内）HPより引用、一部改変